

平成25年10-12月期の四半期別GDP速報の概要

経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課
村井 寛

2月17日に公表した平成25年10-12月期四半期別GDP速報(1次速報)では、実質GDP成長率は+0.3%(年率+1.0%)、名目GDP成長率は+0.4%(年率+1.6%)と、実質成長率については4四半期連続、名目成長率については5四半期連続のプラスとなった。実質成長率への内外需別の寄与をみると、外需は▲0.5%と2四半期連続のマイナスとなった一方、内需は+0.8%と5四半期連続のプラスとなった。内需の内訳をみると、7-9月期よりも民需の成長率が加速し、成長の寄与度が公需から民需へ移っている。

以下では今回速報の概要について解説する。詳細は国民経済計算のウェブサイトをご覧いただきたい。

(http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou_top.html)

なお、以下の計数は、特段の断りがない限り、実質値の季節調整済前期比、カッコ内は実質GDP成長率への寄与度を示す。

1. 民間需要の動向

民間最終消費支出は+0.5%(+0.3%)と、5四半期連続の増加となった。自動車等の耐久財に対する消費が増加するとともに、金融サービス等のサービスに対する消費も増加に寄与したとみられる。他方、半耐久財に対する消費は概ね横ばい、ガソリン等の非耐久財に対する消費は減少に寄与したとみられる。

民間住宅は+4.2%(+0.1%)と、7四半期連続の増加となった。新設住宅着工戸数の増加が続いている。

民間企業設備は+1.3%(+0.2%)と、3四半期連続の増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、自動車、電子・通信機器等への設備投資が増加に寄与したとみられる。

民間在庫品増加(寄与度)は▲0.0%と若干のマイナス寄与となった。自動車や鉄鉄・粗鋼等の製品在庫がマイナスに寄与したとみられる。他方、流通在庫についてはプラスに寄与したとみられる。なお、仕掛品在庫及び原材料在庫については、1次速報では基礎統計である法人企業統計が利用できないことから統計的な補外推計を行っており、それぞれプラス寄与の推計となっている。

2. 公的需要の動向

政府最終消費支出は+0.5%(+0.1%)と、6四半期連続の増加となった。医療費及び介護費(現物社会給付)の増加が傾向的に続いている。

公的固定資本形成は+2.3%(+0.1%)と、5四半期連続の増加となった。ただし、7-9月期に比べると前期比増加率は鈍化している。

公的在庫品増加(寄与度)は+0.0%と、横ばいであった。

3. 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出は+0.4%(+0.1%)と、2四半期ぶりの増加となった。電子部品等の電子・通信機器や半導体製造装置等の特殊産業機械などの輸出が増加に寄与したとみられる。他方、財貨・サービスの輸入は+3.5%(▲0.6%)と、4四半期連続の増加となった。原油・天然ガス、石油製品等の輸入が増加に寄与したとみられる。

4. デフレーターの動向

GDPデフレーター(季節調整済前期比)は+0.1%と2四半期ぶりの上昇となった。民間消費支出デフレーターが+0.4%増になるなど国内需要デフレーターが全体を押し上げた一方、輸入デフレーターの上昇率が輸出デフレーターの上昇率を上回ったことなどから、外需デフレーターはGDPデフレーターを押下げに寄与した。また、GDPデフレーター(前年同期比)は▲0.4%と7-9月期と同じ変化率となった。国内内需デフレーターは+0.5%と7-9月期(+0.4%)よりも上昇率を高めたものの、外需デフレーターのマイナス寄与が拡大した。

5. GNI(国民総所得)の動向

GNIは季節調整済前期比で実質が+0.1%(年率+0.4%)、名目が+0.4%(年率+1.5%)と、ともに2四半期ぶりの増加となった。海外からの実質純所得が概ね横ばいとなる一方、輸入デフレーターの上昇から交易利得が減少に寄与した結果、実質GNIは実質GDPよりも低い成長率となった。

なお、平成25年10-12月期2次速報の公表は、3月10日(月)を予定している。

村井 寛(むらい ひろし)